The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	2014年度　意匠学会論文賞選考結果報告
Author(s)	面矢, 慎介
Citation	デザイン理論. 2015, 66, p. 2-2
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/56307
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

2014年度　意匠学会論文賞選考結果報告

学会賞選考委員会
副委員長　面　矢　慎　介

受賞論文

伊原久裕氏

「1960年代の日本のグラフィックデザインにおけるアイソタイプの受容」

受賞理由

受賞論文は，1960年代にグラフィックデザインの新しい傾向として世界各国で注目されたピクトグラムが，日本においてどのように取り組まれてきたのか，そしてアイソタイプがピクトグラムにどのような影響を及ぼしてきたのかを，東京オリンピックにまつわる言説やデザイン作品を中心に取り上げ，検証したものである。さらにその後のアイソタイプに関する言説の変化についても考察し，日本のグラフィックデザインにおけるアイソタイプ受容を，当時の状況に基づきながら全体的に明らかにしている。

この論文のすぐれた点は，日本のピクトグラムデザインが成立する過程を，言説だけでなく，作品の特徴を深い専門知識によって分析していること，そしてまたアイソタイプの日本での受容の歴史的変化の分析（ピクトグラムデザインに示唆を与えるものとしての称揚から，その限界を指摘する批判論への論調の変化へ，そして歴史的業績としての再評価へ）を通して，アイソタイプの欧米への影響と日本のそれが異なる特徴を持つことを明らかにしたことが挙げられよう。またこの論文は，伊原氏が長年にわたり当学会に発表されてきたアイソタイプ研究に基づき，それを発展させた新たな成果であり，意匠学会論文賞として顕彰するに価する。

選考経緯

本論文賞は，『デザイン理論』63号，64号掲載の学術論文（研究報告を含む）12編を対象とし，昨年度までと同じ以下の方法で選考した。まず，選考委員がそれぞれ上位５編の論文を選び，それを１位から５位までに順位づけした。これを１位５点，２位４点，３位３点，４位２点，５位１点と点数化し，集計した。その結果，１位が13点，次点が11点，３位が９点（以下略）となった。この結果を各選考委員に示し，最終的に１位選考結果が確定した。１位となった伊原論文は選考委員（事情により今回の推薦を辞退した１名を除く）全員が推薦していた。当該論文以外には選考委員全員の推薦を得たものはなかった。